

業種名	前年同月比				業種名	前年同月比					
	売上受注	取引条件	収益状況	業界の景況		売上受注	取引条件	収益状況	業界の景況		
食料品製造業	漬物	→	→	→	→	卸売業	肥料	↓	↓	↓	↓
	醤油・味噌	↓	↓	↓	↓		◎卸団地(津)	→	→	→	→
	豆腐	→	→	↓	↓		◎商業(鳥羽)	↓	→	→	→
	麺	→	→	→	↓		◎青果(松阪)	↓	↓	→	↓
繊維製品製造業	◎組紐(伊賀)	↓	→	↓	↓	小売業	自転車	↓	↓	↓	↓
	衣料縫製	→	↓	↓	↓		家電	↓	→	↓	↓
	テントシート	↓	→	→	↓		石油	↓	→	↓	↓
木材・木製品	↓	↓	↓	↓	スポーツ用品		↑	→	↓	↓	
紙・紙加工品	段ボール箱	→	→	→	→	商店街	◎熊野市	→	→	↑	→
	古紙	↓	→	→	→		自動車整備	↓	→	↓	↓
印刷	→	→	→	→	サービス業	宿泊施設	↓	→	↓	↓	
窯業・土石製品	生コンクリート	→	→	→		→	旅行業	→	→	→	→
	◎陶磁器Ⅰ(萬古焼)	→	→	↓		↓	◎飲食業	→	→	→	→
	◎陶磁器Ⅱ(伊賀焼)	→	→	→		→	警備業	↑	→	↑	↑
金属・一般機器・電気機器・輸送機器	鍍金	↓	→	→	↓	建設業	総合工事業	↓	→	→	↑
	◎機械器具(四日市)	→	↓	↓	↓		内装工事業	↓	→	↑	↑
	◎機械器具(久居)	↑	→	→	→		電気工事業	→	→	→	→
	◎機械器具(伊勢)	→	→	↑	→		◎水道工事業(四日市)	→	↓	↓	→
	◎電気機器(鳥羽)	↓	↓	↓	↓	運輸	トラック輸送	→	→	→	→
	◎輸送機器(鈴鹿)	↓	→	↓	↓		◎不動産(鈴鹿亀山)	→	→	→	→

↑…増加・上昇・好転 →…変わらず ↓…減少・下落・悪化 ◎…地域単位の組合

	集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
製造業	食料品	醤油味噌	相変わらず厳しい状況が続いている。
		豆腐	10月11日、12日と中日本豆腐油揚協同組合連合会（愛知、三重、富山、長野、福井で組織）主催で、愛知県のウインクあいちにて地場産消大豆祭りを開催した。二日間の来場者数は約2,000人であった。
		麺	10月に入り、伊勢うどんの売上は昨年同様とはいかないが、全体的に認知度も上がり県内のお客さんにも食べて頂いている。ゆでめんと生めんは全体的に低迷していると思われる。10月は県内でイベントがあり、伊勢うどんの販売が各地で行われている。また、11月には蒲郡市で開催されるうどんサミットへ出店する。
	繊維工業	テントシート	前年の10月と比べると、ずいぶん受注が落ちている。
	紙・紙加工品	紙器段ボール箱	自動車の輸出向けやスマートフォン用の梱包材の出荷が堅調で、食料品関係の出荷も昨年並みを確保している。
		古紙	9月期の仕入重量は、前年比段ボールは約96%（増減4%前後）、新聞・チラシは約93%（増減5%前後）、雑誌等その他合わせて約95%（増減5%前後）といった中での推移である。一昨年からは業界全体の集荷が落ちてきているようである。組合員のいる地域と出店状況によっては、前年並みに集荷できているところもあるようであるが、殆どの組合員が本離れや簡易包装、輸送箱のリユースできる通い箱化等による国産製品の減少と、台風や雨天によるもの、集荷方法の多様化、持ち去り等多面的な原因により取扱数量が減っていると思われる。仕入重量が増えず利幅が取りにくい環境は変わらない。為替が円安となり、輸出できれば収益が出ると思われる。
	印刷	印刷	県民手帳の作成も出来上がりを待つばかりとなり、三重県とのPR、販売の調整、組合各社の予約販売の件もあり、組合としては忙しく過ごすことが出来た。三重県にとって話題となる手帳を作れたことは、地域に貢献できたと思っている。
	窯業・土石製品	伊賀焼	9月の好調の反動もあって、入館者数は昨年と比べ増加しているにもかかわらず、伊賀焼伝統産業会館では売り上げは下回った。伊賀・信楽古陶館では、上野天神祭当日が晴天であったことや行楽シーズンであり売り上げは昨年を上回った。また、NHKのBS放送で取り上げられた土鍋やおひつを製造する窯元は引き続き好調である。
	鉄鋼・金属	鍍金	当業界の生産量は、9月と比べ若干の陰りが出てきており、特に自動車関連部品は徐々に減少傾向である。その他の加工品に関してはばらつきがある。業界の取り扱う製品も多様化し、この局面を乗り越えようと変化してきている。半導体関連は9月同様増加傾向にあり、当面はこの状況が続くものと思われる。
	一般機器	四日市	円安、原油高、消費税率アップ、中小企業の多くは不安の中で頑張っている。現状の環境の悪化に負けぬよう、当組合員各位は自助努力を続けている。
		伊勢	中小の自動車関連の部品製造業は、自動車メーカーの景気動向により一般的に後追いとなることが多い。現状、世界経済を牽引している北米の好調さによって支えられている面が多分にある。ただし、中国経済の成長率鈍化やヨーロッパの低迷等、不安要素が山積しており先行きを懸念している。
	電気機器	鳥羽	上期始まり（7-9月）で受注量は30%位減少した。これから後半の動きに期待している。
輸送機器	鈴鹿	下期に入ったが稼働率は落ちたままである。鈴鹿市内の大手自動車メーカーでは、未だに生産調整のための有給休暇奨励日が設定されている。	
非製造業	卸売業	肥料	夏の肥料は大方終了したが、大半がJAで販売されたため年々少なくなってきている。
	小売業	青果	野菜は、前半は台風の影響は少なく白菜等の生育は順調で例年に比べお値打ちで、後半はキャベツ等も安くこのまま安定して推移しそうである。果物は、リンゴ、みかん等が豊作で価格も安値、リンゴは種類も多く、特にシナノスイートは味も良くて価格も大変お買い得である。みかんは極早生品種が最盛期で、11月にはさらに甘い品種に替わる。
		自転車	先月に続き、今月も昨年比10%以上売上が落ち込む中、日商連事業として行う店舗型自転車安全無料点検は部品交換等に繋がるので、この点検で売上向上を目指す店舗もあった。2015年モデルが発表されたが、今後各ショップに展示されるとみられる商品も今一つ動きが悪いようである。昨年と同等の商品は軒並み3,000円以上の値上げとなっており、量販店が扱うプライベートブランドとの差別化をどうユーザーに伝えていくかが必要とされている。

非製造業	小売業	家電	厳しい市場環境が続いている。上半期(4-9月)は2桁のダウンで、年間(1-9月)でも増税の駆け込み需要を含めほぼ前年と同実績で推移した。昨年、三重県は秋冬にかけて量販店の新規出店が3店あったが今年の出店はゼロである。各メーカーは新製品の先出し、地域での合同展示会等で需要拡大に取り組んでいる。
		石油	10月度の燃料油販売については、前年対比5%前後の減販である。原油安による価格下落が発生しているものの、需要回復の気配は見え、各元売りの出荷量を見ても4月以降のガソリン減販が7ヶ月連続の状況であり、収益等について大変苦戦を強いられている。11月は各地域にかけて行楽シーズンであり、いろいろなイベントが行なわれると思うので、ガソリン等の販売数量増加を期待したい。
		スポーツ用品	消費税率が上がっているのに販売価格が下がってきている。理由としてはネット販売によって価格に乱れが生じているため、その影響ではないかという結論である。ネット販売の困るところは、業者がそれぞれカテゴリー別に販売する一方、我々は商品を総合的に扱っている関係もありどうしても価格では負けてしまう状況である。
	商店街	熊野	昨月から商店街で開催している「熊野うまいもんフェア～いこらい市～」の当月のテーマは和菓子。高齢者を対象に各種健康測定をスタンプラリーで巡る「第6回こうれいしゃに優しいいこらい市」もタイアップし、予想以上の集客に繋がった。
	サービス業	旅館	昨年の秋シーズンは伊勢神宮の式年遷宮効果が最大限に出ていた時期であったため、それと比較すると今年の秋シーズンは、地域差はあるが売上はかなり減少しているようである。また、春から続いている個人消費の低調は現在でも好転する気配も無く、個人客はやや減少している。当月2回の台風によるキャンセルも痛手であった。
		飲食業	受動喫煙防止対策として、全国的に条例やガイドラインが制定される昨今では、特に2020年開催の東京オリンピックを見据えて、東京都などでは急速に分煙対策などの検討会を設置する等の対策がされている。飲食組合では、平成15年度より分煙対策をはじめとするステッカーの作成や、ガイドラインの策定を自主的に促進している。法律等で一律な規制には反対のスタンスであり、現時点では表示等による消費者(利用者)に対する選択分煙に努めている。
		警備業	受注に対して警備員数が不足している。
	建設業	総合工事業	前月に多数の工事が発注され、その反動で当月の受注額はかなり減少した。
		内装工事業	10月は前年同月に比べると若干減少している。年末にかけては受注が増加傾向にあり、人手不足が予想される。今後は消費税増税が重要な要因となると思われる。
	運輸業	トラック	燃料価格が若干値下がり傾向であり、収益の圧迫が少し緩和されてきているが、運賃水準の見直しまでには至っておらず、引き続き厳しい経営状況にある。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
製造業	四日市	政府の施策は中小企業対策に本当に向けられているのか。全国中央会からの働きかけを切望する。
	久居	政務調査費の廃止を要望する。
	伊勢	消費税10%へのアップ判断は慎重にお願いしたい。消費マインドの低下を招くことになれば、元も子もない。
サービス業	旅館	消費税増税の時期について議論されているが、地方の中小企業の実情を理解するよう働きかけてもらいたい。
運輸業	トラック	景気の動向に停滞感がみられるので、景気対策を講じて欲しい。